

トピック

市民に意見を聞き、斐伊川の橋梁を「からさで大橋」と決定

- ひいかわ
・斐伊川の渡河部において、橋梁についてデザインやパブリックコメントを実施し、橋梁名称等を決定しました。
(H18. 3:一般募集 応募者344名)

□「からさで」という言葉は、神在(有)月〔出雲大社は旧暦10月、他の神社では月遅れでの新暦11月〕に出雲に集まった全国の神様をお見送りする神事で、出雲地域における神事や行事、風習を表す言葉のひとつ



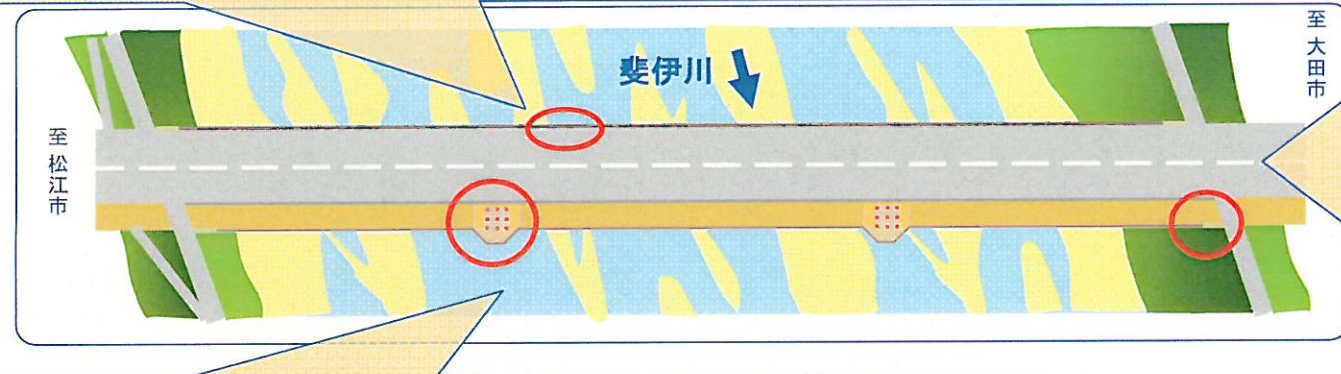
【からさで大橋を上空から望む】

【主なデザインについて】



【照明】

- ・周辺の眺望を阻害しない直ポールを採用
- ・周辺環境への光害を軽減するため、漏れ光の少ない器具を選定するとともに、誘虫性の少ない高圧ナトリウムランプを採用。



【バルコニー】

- ・木橋時代の神立橋で人々が美しい風景を前にたたずんだ情景の継承
- ・河川景観と調和する自然石を使用した滑りにくい脱色性透水性舗装、アクセントとしてバルコニー部には出雲大社の柱の形をイメージしたブロックを敷設。



【高欄親柱】

- ・周辺の自然景観の眺望性を阻害しない透過性の高い横棧タイプ(高欄)
- ・古事記に詠まれた「肥河に黒木の簀橋を造る」にちなんだ「こげ茶」色(高欄)
- ・出雲大社本殿の三本に束ねられた巨大柱や出雲流庭園の三尊石にちなんだ1面を三分割した形状(親柱)
- ・木橋時代の神立橋の親柱に使用していた材質(自然石)を継承